

田尻町 道路橋梁長寿命化修繕計画

事業部 都市政策課

平成27年 3月



1. 長寿命化修繕計画策定の背景と目的

田尻町は、平成 26 年度現在において 6 橋の道路橋を管理しています。これらの橋は、ほとんどが高度成長期前後に架設されており、1992 年までに全体の 83%である 5 橋が架設されています。

架設後 50 年以上経過した橋が占める割合は現在 50%(3 橋)ですが、20 年後には 83%(5 橋)と橋の老朽化の進行が懸念されます。

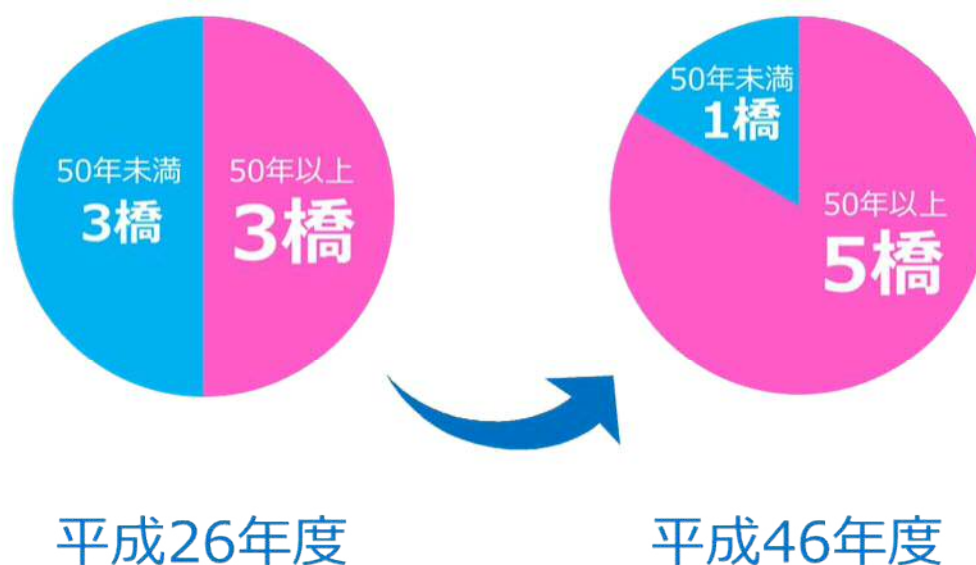


図 1 架設後 50 年経過する橋梁数の推移

今後、橋や道路の老朽化が進むに従い傷みもひどくなり、町民活動を支える橋や道路を取り巻く環境はますます厳しさを増すものと考えられます。

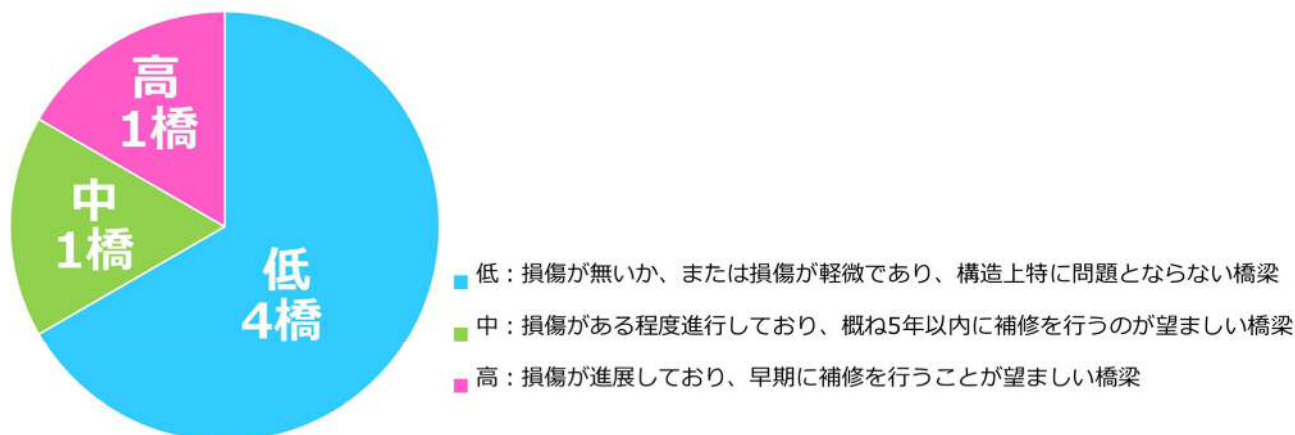
あわせて、これらの高齢化を迎える橋に対して、従来の『悪くなってから対策をとる』という対症療法型の維持管理を続けた場合、橋の修繕・架替えに要する費用が増大となることが懸念されます。

そこで田尻町では、対症療法型の維持管理から、『傷みが小さい時から計画的に補修する』という予防保全型の維持管理手法に移行することとして「道路橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、橋の修繕・架け替えに要する費用を軽減させると共に、田尻町の安心安全な道路ネットワークを維持することを目的とします。

2. 道路橋梁の現状

田尻町では、平成 26 年度に町管理橋梁すべてを対象に点検を行い、傷みの状況を把握しました。点検の結果に基づき、補修対策の優先度を設定しました。

その結果、優先度：高の橋梁が 1 橋、中が 1 橋、低が 4 橋でした。



3. 道路橋梁の維持管理方針

日常点検では、橋の維持管理の一環として現状を把握し、安全性や耐久性に影響すると考えられる損傷を早期に発見するよう努めます。日常点検は毎年、町職員で実施するとともに、点検に携わる若手職員の育成に努めていきます。

また、定期点検（1回／5年）では、専門家による点検により橋梁の状態変化を把握し、長寿命化に必要な修繕の必要性などを評価します。

このように、継続的に実施される点検により、安全に橋の通行が確保出来るように監視します。点検により損傷が明らかになった場合は、損傷が悪化する前に修繕を実施します。

4. 本計画による修繕の内容

策定した計画に基づき、塗装の塗替えや傷んだ箇所の補修などを計画的に実施します。



コンクリートの浮き



鉄筋の露出



舗装の異常

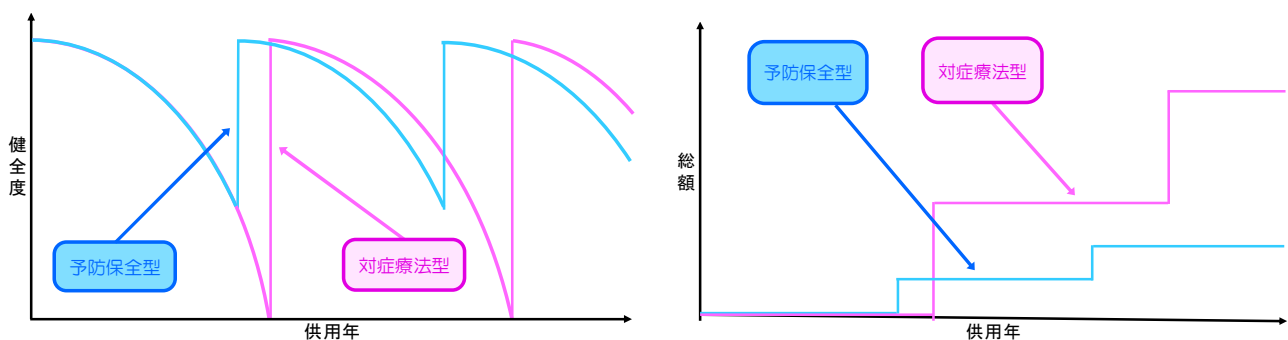


漏水・遊離石灰

図 3 橋梁の主な損傷例

5. 長寿命化及び修繕・架替えに係わる費用の縮減に関する基本的な方針

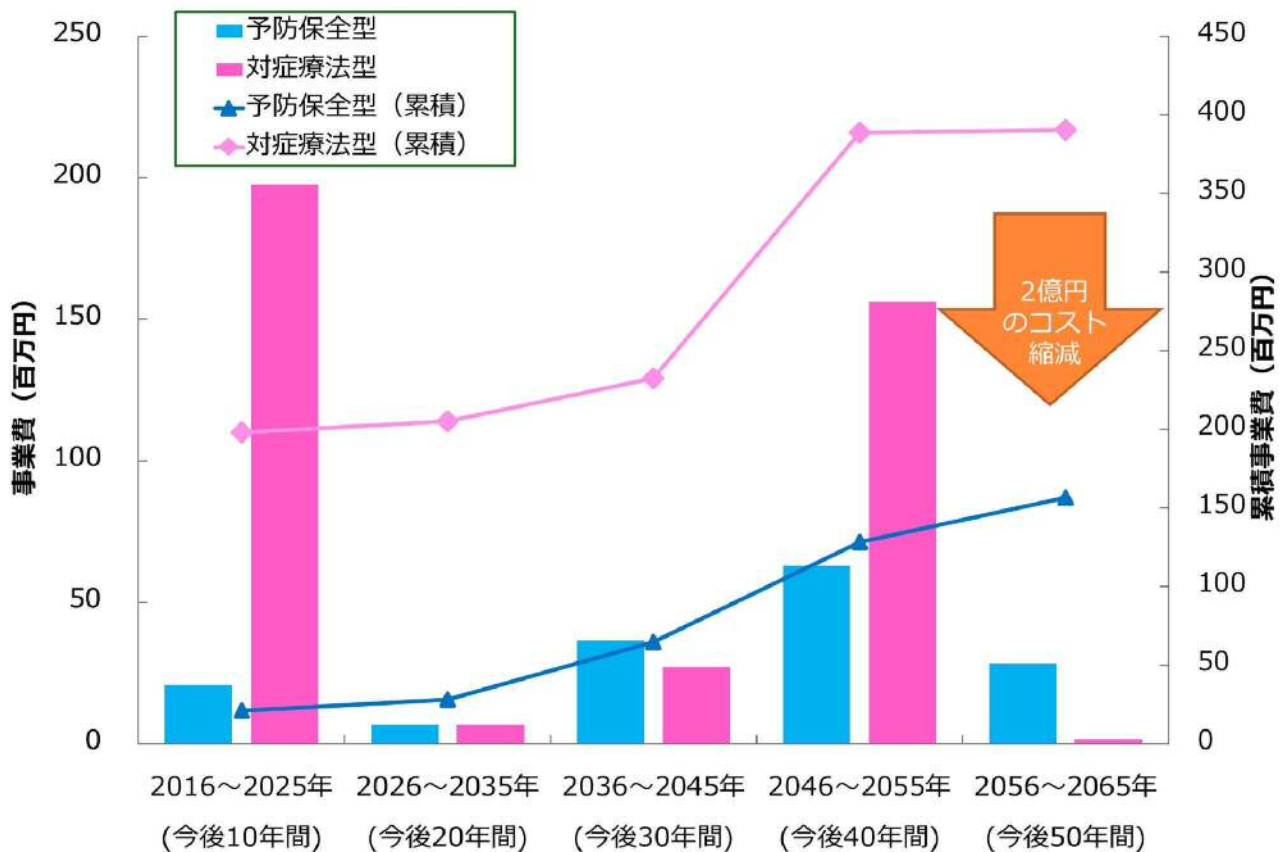
- ① 定期点検によって橋の状態を継続的に把握することにより、橋の安全性を確保します。
- ② 「対症療法型」の管理から「予防保全型」の管理への移行によりコストの縮減を図ります。
- ③ 個々の橋の損傷程度を総合的に評価した修繕計画を策定することにより、効率的な維持管理を行います。



6. 長寿命化修繕計画による効果

本計画を実施することで、橋を維持する費用は50年間で総額4億円（対症療法型）から2億円程度（予防保全型）に節約できるとの試算になっており、大幅なコスト削減が見込めます。

また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保されます。



※上記費用は2015年時点での概算です。

図 4 対症療法型と予防保全型の工事費予測

7. 長寿命化修繕計画に基づく今後の取り組み

田尻町は、「対症療法型」から「予防保全型」への転換を図り、橋の長寿命化および効率的な維持管理によるコストの縮減を図る目的で、長寿命化修繕計画を策定しました。

今後、本計画に基づいて橋の点検、維持、対策を繰り返し行うことにより、橋の適切な管理を積極的にすすめ、経済的に安心安全な道路ネットワークを維持するように努めていきます。

また、今後は橋梁点検に関する講習会などに積極的に参加するなどし、橋梁点検に関する知識、技術の向上に努めていきます。

8. 意見を頂いた学識経験者

長寿命化修繕計画の策定は、橋の専門知識を有する学識経験者から意見を聴取しました。

大阪市立大学大学院 工学研究科 都市系専攻橋梁工学分野
山口 隆司 教授

田尻町

〒598-8588 大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺 375 番地 1

TEL 072-466-1000